

短編：ナザリックの忠 犬

抹つ茶

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

AINZ·WURL·GOUNには、忠実な人狼がついていました。※ルブージやないよ

短編：ナザリックの忠犬

目

次

短編：ナザリックの忠犬

『ナザリック地下大墳墓』

絶対的支配者、アインズ・ウール・ゴウンを主とする10階層に及ぶダンジョンである。

無数のアンデッドや悪魔、様々なモンスターが侵入者を阻み……その命を刈り取つてゆく。

踏み荒らす事は、死よりも恐ろしい罰を受ける事を意味する。

そして……異形の怪物がひしめくその場所に、人と亜人種で構成された集団がいた……。

人間でありながらナザリックに居る事を許された冒険者チーム……
階層守護者にその実力を買われたりザードマンの部族……

人間に奴隸として飼われていたエルフ……

ナザリックに侵入するも敗北し、慈悲により存命を許された「ワーカー」達……

様々な経歴を持つ彼等を纏め上げるのは、

『森の賢王』と呼ばれた魔物に跨がり、白銀の武者鎧を纏つた白き人狼。

彼の名は……

▽ ▽ ▽

「ガハハハ！快勝快勝ウ！」

「兄者の戦いぶりにはいつも惚れ惚れするでござる！」

上機嫌な鎧武者の人狼を乗せ、蛇のような尾を持つ巨大なジャンガリアンハムスターが彼の活躍を讃えている。

人狼を兄と呼んでいるのは、カルネ村付近の森を縄張りとしていた元・“森の賢王”である。

しかし、今は背中に乗せている人狼と義兄弟の契りを交わし、『ハムスケ』とゆう名前を与えられた。

それ以来、二人（二匹）は常に行動を共にしている。

「いやいや、ハムスケ殿の活躍も素晴らしいですよ」

「団長とハムスケは速すぎだつて。今の俺でも追いかけるのがやつとだし……」「まさに『駆け抜けること迅雷の如し』であるな」

「はい、とてもカッコ良かったです！」

巨大ハムスター、"ハムスケ"の傍らにいる4人。

彼らは嘗て"漆黒の剣"と呼ばれた冒険者チームだ。

リーダーを務める"騎士"ペテル・モーグ

チームの耳と眼である"ニンジャ"のルクルツト・ボルブ

落ち着いた印象の"ハイ・ドルイド"、ダイン・ウッドワンド

そして魔法詠唱者の

少女ニニヤ

ある事件をきっかけに、人狼と行動を共にするようになつた彼等。今ではアインズに忠誠を誓う人狼の仲間として、強い絆で結ばれている。

「……団長殿、もうじきカルネ村に到着します」

そう告げたのは、元・ワーカーのヘッケラン・ターマイト
彼のチーム『フォーサイト』は、ナザリックに踏み込んだ際にアインズの怒りを買つ
たが、人狼の説得により命を救われる。
……ただ、神官のロバー・デイクだけは、『至高の四十一人』の名を利用した罪でお仕置
きされている。

※以来、拷問官の名前を聞くだけで震えが止まらないらしい※

「ん……各員に通達！ 本隊、エルフ隊、リザード隊の順でカルネ村に入る！ 周囲を警戒し
つつ隊列を整えよ！」

「「「了解！」」」

部隊を率いるアルビノの人狼。

彼の名は
八^ヤ
八^{ハッ}
房^フ
。

人間と亜人種の混成部隊、〈神犬旅団〉を纏め上げる英雄である。
義に厚く、涙もらい……そして外道には無慈悲……。

人は彼を“ナザリックの忠犬”と呼ぶ。

「……犬じや無え！オレ様は狼だつ！！」

「兄者つ?! いきなりどうしたのでござる?!」

6 短編：ナザリックの忠犬

続
く
？